

Die Unsichtbaren - Wir wollen leben

(独、110分、10月26日公開)



あらすじ

第二次世界大戦下1943年のベルリンで、生き延びることに全てを賭けるユダヤの若者たち。ドイツ人や互いの協力と信頼、そして裏切りの狭間で、知恵を絞り素性を隠しドイツ人として生活を続ける者、戦争反対の地下活動に力を尽くす者、生き延びるためのその手段は様々だが、皆を一步間違えば待ち受けているのは強制収容所…。



事実は小説よりも奇なり。

そんな言葉が薄っぺらに感じられてくる。

これは実際に当時を生きた人々の証言に基づいた映画だからだろう。

話だけを字面で見ると非常に厳しい内容だが、それぞれの体験が巧く再現ドラマになっていて、ユダヤ人とドイツ人協力者、ベルリン市民の置かれた状況や、抱いている感情を追いかけて易い作品となっている。

そうしておいて挟み込まれる当事者の体験談は興味深い。

一人ひとりの表情の示す意味と、言葉の意義をしっかりと受け止めたい、そんな1本です。

と、今回はここまで。次回作もお楽しみに。

